

## オープン市場短信 (2016年9月)

2016.9.12

### ◆ 8月のCP市場動向

8月末のCP（短期社債）発行残高は14兆7584億円と、前年同月比で▲1兆7604億円の減額となり、11か月連続して前年実績を下回る結果となった。発行残高の減少要因として、証券会社の発行ニーズの後退があげられる。証券会社の発行は、昨年12月の2兆5026億円がピークだが、8月末は9429億円と09年6月末以来、約7年2か月ぶりに1兆円割れとなった。

月中旬までは、夏季休暇もあって閑散な市場につき、15日は入札での償還及び新規発行が1件も観測されなかった。しかし、月末近辺になると期内物物中心にまとまった額の発行が行われ、前月比では+1408億円の増額となった。内訳をみると、増額は一般事法で+4119億円、その他金融で+90億円。一方、減額は金融機関で▲1424億円、ABC Pで▲1377億円であった。

発行レートの動きは、引き続き投資家やディーラーの購入ニーズが強く、銘柄や期間を問わず0%近辺での出合いが中心となった。マイナスレートでの発行は、9月末を越える期間の長い発行案件の一部で確認された。

### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0%近辺。一般事業法人（a-1格）マイナス～0.015%近辺。その他金融銘柄（a-1格）0%～0.065%。

### 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	8月末残高	7月末残高	増 減
一般事法	47,132	43,013	4,119
その他金融	67,445	67,355	90
金融機関	19,959	21,383	-1,424
政府系金融	0	400	-400
銀行等	10,530	10,760	-230
証券	9,429	10,223	-494
ABC P	13,048	14,425	-1,377
計	147,584	146,176	1,408

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

8月のCPレートレンジ

(単位%)

格付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0000% ~ 0.00001%	—— ~ ——	—— ~ ——
a-1(一般事法)	▲ ~ 0.0067%	▲ ~ 0.0040%	▲ ~ 0.0150%
a-1+(リース銘柄)	0.0000% ~ 0.00001%	0.0000% ~ 0.00001%	—— ~ ——
a-1(リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0700%	0.0001% ~ 0.0012%	0.0000% ~ 0.0650%
a-2	0.0002% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%	0.0190% ~ ケ0.10%

《CPオペ》

8月のCP等買入オペは予定通り、4日・16日・26日と各回3500億円でオフア一され、合計1兆500億円であった。ディーラーのオペに対する売却ニーズは強く、按分レートは7月より6回連続して▲0.001%となった。また、平均落札レートは各回共に0.000%であった。

【月末オペ残高：2兆2655億円】

日報 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月4日	8月9日	3,500	10,688	3,476	-0.001%	0.000%	10.7%
8月16日	8月19日	3,500	7,374	3,489	-0.001%	0.000%	59.8%
8月26日	8月31日	3,500	8,122	3,481	-0.001%	0.000%	37.8%

《ABCP》

ABCPの月末残は前月比▲1377億円減額し、1兆3048億円であった。前年同月比では、▲1227億円の減額となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、8月末時点における発行登録企業数は、ソニー銀行とファミリーマートが新規登録を行い、520社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

## ◆ 9月のCP市場動向

9月のCP償還額は約3兆8600億円で、前年同月の償還額（約3兆7800億円）を上回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、中間決算期末を控え、総じて減少が見込まれる。一般事法の発行は、有利子負債の圧縮目的から期越え発行を抑え、9月末償還等のショートターム物中心となると思われる。金融機関の発行減少は一服しつつあると指摘する向きもあるが、証券会社の発行ニーズは弱く今月も減少するだろう。期越物の発行は、長めの資金調達ニーズの強いその他金融に偏るものと思われる。

月末発行残高は、前月に比べ約2兆円減少し13兆円近辺と、12か月連続して前年同月比の減少を予想する。

発行レートは、期内物や発行の多い銘柄で0%からプラス圏内での出会い、期越物についてはマイナス～0%近辺での出会いを予想する。一般銘柄では、期内物は0.0%近辺～0.01%割れ、期越物ではマイナス～0.001%近辺での出会い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の期越え物では、マイナス～0.06%台での出会いを予想する。

### 《CPオペ》

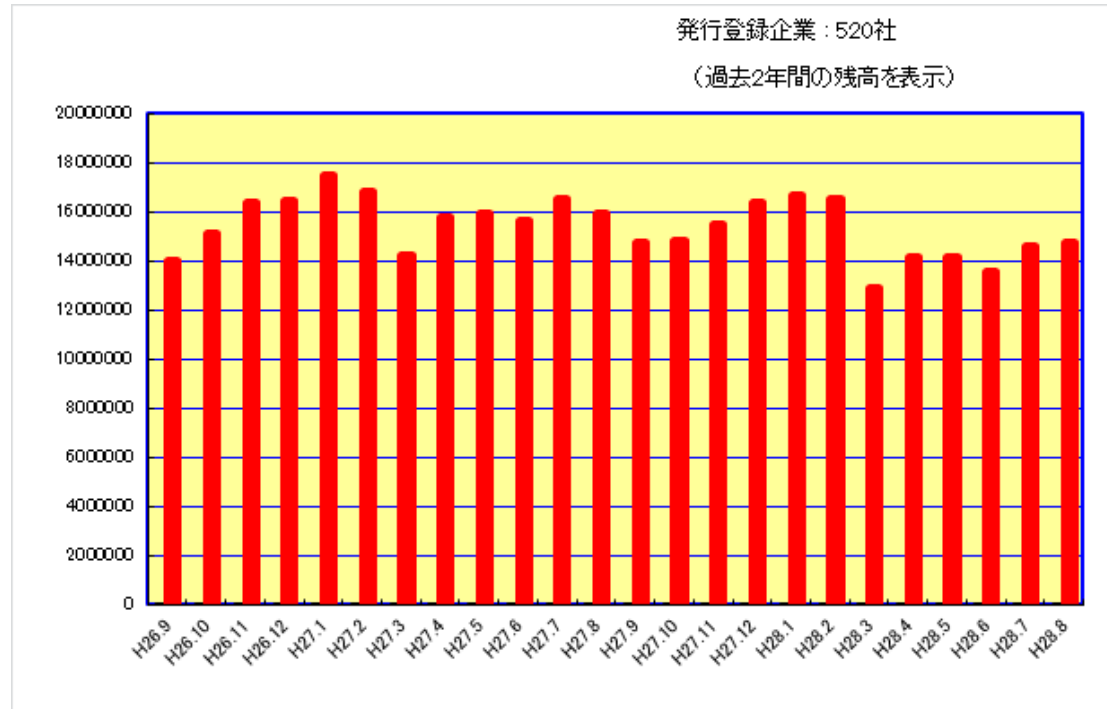
9月のCP等買入オペのオファーは、6日・13日に各々5000億円程度、26日に5500億円程度（7/29発表分から500億円増額）、合計1兆5500億円の予定となっている。6日のオペは、前回オペ（8/26オファー）より按分レート・平均落札レート共に0.001%低下した。13日以降のオペも、オファー額の多さと月末越え発行の減少等を勘案し、按分レート・平均落札レート共に低下余地を探る展開を予想する。

### 《CP現先市場》

CP現先レートは、投資家のプラス圏内での運用ニーズは強く、0%近辺での出会いを予想する。

**参考資料**

**短期社債月末残高** (26年9月～28年8月)



**8月末発行残高ベスト10**

**8月末発行残高上位10社**

(単位:百万円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	891,200	920,700
2	三菱UFJリース	754,600	750,700
3	東京センチュリーリース	593,600	598,400
4	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
5	JXホールディングス	436,000	446,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	427,340	475,010
7	新日鐵住金	389,000	360,000
8	三菱UFJ信託	369,000	369,000
9	興銀リース	362,900	361,600
10	芙蓉総合リース	360,700	367,200

参考出所 (株)証券保管振替機構

-----  
本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会